

「はい、山本歯科医院です」

「予約をお願いしたいのですが」

「こちらの医院へおいでになるのは初めてですか？」

「いえ、随分前に一度通ったことがあります、本当に暫くぶりです」

「それではお名前をフルネームでお願いします」

「中村正志です」

「申し訳ありません。少し声が遠いのですが、もう一度お名前よろしいですか？」

「中村正志です」

「中村正志さんですね。ご住所もお願いします」

「横浜市中区山下町二―四―一です」

「こちらに通っていたのはいつ頃か覚えていらっしゃいますか？」

「ええと・・・四年ぐらい前だったと思います」

「わかりました。今カルテの確認をしてみますのでお待ち下さい」

中村は電話口で暫く待たされた。

「お待たせいたしました。中村正志さんのカルテの確認ができました。中村さんの前回の治療は平成十四年の二月で終わられていますね。担当の先生は野口先生でしたので、野口先生の治療で予約の時間をお調べします。現在痛みが激しくて仕方ないということはありませんか？」

「いえ、大丈夫です」

「それでは、予約はいつがいいでしょうか？」

「一番早く予約がとれるのはいつでしょうか？」

「そうですね。一番早いのが今週の金曜日の四時半になります」

「すいません。曜日はいつでも構いませんが、午後ではなくて午前中に、それもできれば朝一番の時間がいいのですが」

「朝一番というと九時になります。その時間で一番早くとれる日となりますと、来週の木曜日になります」

「はい、その時間で結構です」

「では来週の木曜日の九時に予約を入れておきます。当日は保険証をお持ちくださいね」

「わかりました。よろしく願います」

当日、中村は予約時間の十分ほど前に山本歯科医院に着き、少し緊張しながらドアを開けて中に入った。

「おはようございます。九時に予約をお願いした中村正志ですが・・・」

「中村正志さんですね。おはようございます。今日は保険証はお持ちになりましたか？」

「はい、持ってきました」

「ではお預かりします。それから、こちらの用紙に現在の歯の状況について簡単に記入をお願いします。記入が終了しましたら、そちらのソファーにお掛けになってお待ち下さい」

「はい、わかりました」

中村は記入を終えるとソファーに座り、名前が呼ばれるのを静かに待った。